



市政羅針盤

市長が自ら、市政運営の方針を分りやすくお伝えします。 〇秘書課 ☎36-7117

今月のテーマ 「ネクストステージ」の課題とそれに立ち向かう自治体の取り組み

日本の人口は 2008 年をピークに減少局面に入り、基礎自治体(市町村)でも超高齢・人口減少社会への対応が重要課題となっています。このようなかつて経験したことのない社会的局面、いわゆる「ネクストステージ」に向き合い、適切に対応するのは、直接住民に接している私たち基礎自治体の使命です。

超高齢・人口減少社会は、私たちの日々の生活に今すぐ大きな影響を及ぼす訳ではありません。しかし今後、長期にわたって経済や暮らし、地域生活など、さまざまな面で影響が出てくるのが予想されます。

具体的な事例として4つを挙げますと、①地域コミュニティの機能低下。高齢化により、自治会役員の担い手がいない。草刈りや

川ざらいなどの地域の共同作業ができない。会員が減少して老人会や自主防災組織などの組織を



地域コミュニティが支える地域防災訓練

継続できないなど、さまざまな課題が起こります。②都市のスポンジ化。空き地や空き家などが「小さな穴が空くように」次第に増えていき、近くにスーパーが無くなるなど生活の利便性が低下。空き家の防犯対策なども課題になります。③公共施設等の老朽化。合併を重ねて、現在、市が保有している公共施設は 276 施設 663 棟。橋りょうは 1,155 本、市道は 1,137 km 管理しています。これらを維持するために、今後 40 年間でおよそ 2,515 億円掛かると

試算され、市は 2016 年に「島田市公共施設等総合管理計画」を取りまとめました。2040 年までに公共施設を 21% 削減する計画です。しかし、総論賛成・各論反対で、「なければ不便」という地域住民の理解を得るには、「痛みを分かち合う」という大きな意識改革が必要です。④自然環境や国土の保全危機。中山間地にイノシシやシカやサルが出没し、農作物を荒らすだけでなく、夜道で自動車にぶつかるなどの事故が増えています。また、台風による倒木などで電線が切断され、停電が長期化する事態も発生。土砂災害が多発することも懸念されます。

これらの課題を解決する方策の一つが、国が示している将来のまちづくりの方向性「コンパクト・プラス・ネットワーク」(多極型ネットワーク都市構造)です。これまで人口増加に伴い拡大してきた居住地域を、これからはコンパクトに誘導しつつ、都市機能を維持(人口密度を維持)しようとする取り組みです。市でも、この方針に基づき、来年度から 2 カ年をかけて「立地適正化計画」を策定し、生活サービス機能などの計画的誘導、公共交通ネットワークの形成および人口密度の維持などを盛り込む予定です。

財政状況が年々厳しさを増す中「ネクストステージ」に立ち向かうためには、前例に捉われない柔軟な発想をもって行財政運営の改革を図るとともに、市民が真に求めるものを市民と共に創り上げ、市民満足度・幸福度を上げていく「量から質への転換」すなわち「縮充」に基づく行財政運営を推進していく必要があります。市民の皆さまにも何卒、ご理解とご協力をお願いいたします。

「広報ひみ」から

姉妹都市である富山県氷見市から寄せられたイベント情報などをご紹介します。

氷見の冬の旬といえば、なんと言っても日本一のブランドともいわれる「氷見の寒ブリ」。本格的なシーズンを迎え、氷見漁港はさらに活気づいています。この季節、富山湾を南下してくる脂ののったブリのおいしさは、格別です。

ブリ懷石やブリしゃぶ、にぎりずしなどの本物の味を楽しむ「ひみぶりフェア」が開催されます。ぜひ、この機会に氷見へお越しください。

期間 / 2月28日(木)まで

※氷見市内の飲食店、民宿・旅館、ひみ番屋街などが参加。フェア参加店なら、どこでもブリ料理を堪能できます。詳しくは、氷見観光協会ホームページ「きときとひみどつとこむ」で検索。

〇(一社)氷見市観光協会
☎0766-74-5250

